



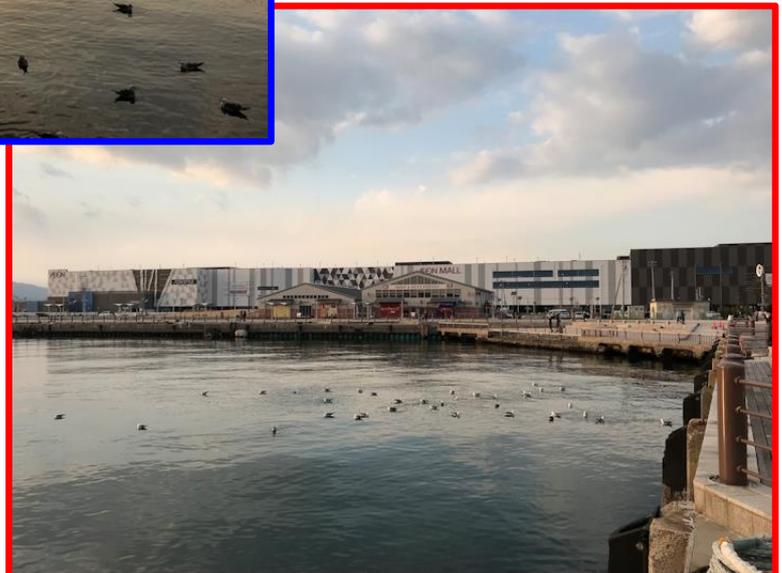
エコアクション21
認証・登録番号 0002470

エコアクション21 環境活動レポート 2018

【活動期間：2017年4月1日～2018年3月31日】



福島復興のシンボル
「アクアマリンふくしま」(上)
と
新たなランドマーク
「イオンモールいわき小名浜」(右)
(撮影日 2018年3月11日)



株式会社アメリティいわき

目次

1.	はじめに	3
2.	会社概要	4
3.	環境方針	6
4.	環境負荷の現状	7
5.	環境目標(3ヶ年)	7
6.	環境活動の主な取り組み	9
7.	2017年度環境活動計画の目標と実績	13
8.	環境活動計画の取組結果と評価及び次今後の取組計画	14
9.	表彰等	17
10.	代表者の全体評価と見直しの結果	18
11.	環境関連法規への違反・訴訟等の有無	18
12.	許可の内容	18
13.	施設等の状況(収集運搬)	19
14.	廃棄物処理料金	20
15.	受託した廃棄物の処理量	21

1. はじめに

2011年3月11日――。

私たちは東日本大震災で被災し、それに続く原子力災害に、今もなお見舞われています。地震の最中はあまりの揺れの激しさに死をも予感いたしました。同級生の何人かは津波で家を失い、命を落としています。幸いなことに、私たちは微細な被害で全員無事に乗り越えることが出来ました。

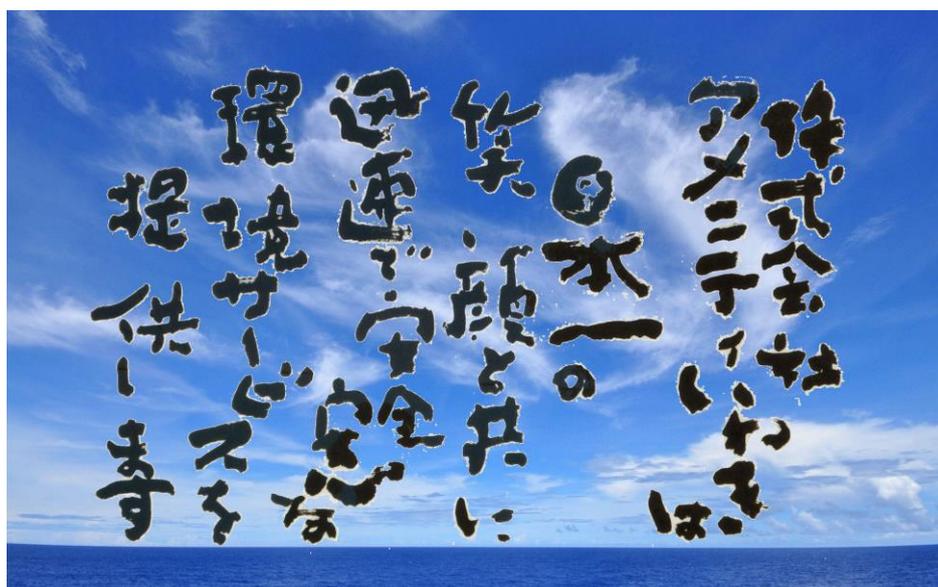


私たちは全国から寄せられた励ましの言葉を忘れません。救援の品々を忘れません。仲間と分け合った炊き出しのおにぎりの味を忘れません。何か事が起これば、今度は自分達が助ける側になろうと思っています。

現在、いわき市では放射線のモニタリングポストが、474台(リアルタイム線量測定システム419台・可搬型モニタリングポスト19台)設置されています。測定値はネット上でリアルタイムに公表しています。私たちは、自然の驚異に畏怖の念を抱きつつ、未来を担う子供たちのために、放射能で汚れてしまった山を、川を、海を少しでも安心して暮らせるようにしたいと思います。今はまだ、力不足でどんな形で貢献できるか定まりませんが、実現すると決意しています。まだまだ発展途上の私たちですが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社アメニティいわき

代表取締役 根本 宏



株式会社アメニティいわき 経営理念

2. 会社概要

- (1)事業所名 株式会社アメンティいわき
- (2)代表者 代表取締役社長 根本 宏(2003年5月31日就任)
- (3)所在地 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町5番地の9
- (4)法人設立 1967年4月1日(創業 1951年11月1日)
- (5)沿革 1951年11月 1日 磐城清掃社 設立 一般廃棄物収集運搬業
1967年 4月 1日 有限会社いわき清掃社設立 資本金 100万円
1978年 4月 1日 産業廃棄物収集運搬業・浄化槽保守点検業
1991年 4月 1日 株式会社アメンティいわきに組織変更
2002年 3月18日 ISO14001認証登録
2008年 5月14日 エコアクション21認証登録
- (6)資本金 1,000万円
- (7)その他の役員 取締役会長 根本 茂 (2003年5月31日就任)
取締役専務 根本 正 (2003年5月31日就任)
取締役 根本 綾 (2017年6月1日就任)
監査役 根本 やす子(2002年3月25日就任)

(8)事業内容 **株式会社 アメンティいわき**

- ・一般廃棄物収集運搬業(し尿・ごみ)
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・浄化槽保守点検清掃業
- ・浄化槽工事業
- ・機密文書出張細断業務

暮らしを、まちを、もっとキレイに。



「アメンティいわきグループ」ロゴマーク

(9)グループ会社およびその事業内容

有限会社 カンセイ

- ・排水管高圧洗浄工事
- ・管工事業
- ・浄化槽保守点検業
- ・ビル管理に関する業務
- ・トイレ診断、トイレ施設に関する管理業務
- ・尿石防止剤、尿石除去剤販売

有限会社 第一環境管理センター

- ・SN式浄化槽汚泥濃縮車に関する業務
- ・浄化槽、浄化槽汚泥濃縮車に係る環境製品の研究開発

(10)環境管理責任者及び担当者連絡先

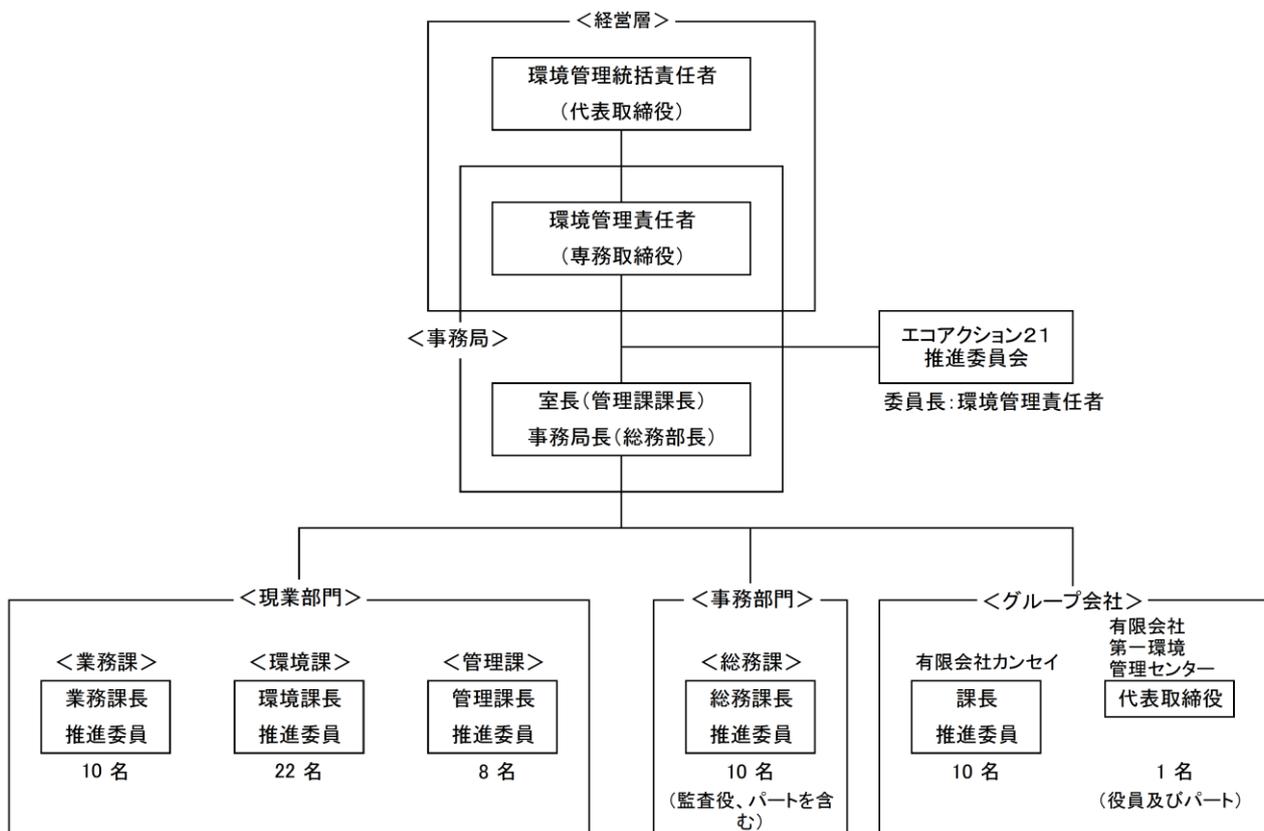
環境管理責任者 根本 正
 事務局担当者 三神輝雄
 TEL 0246-54-2838
 FAX 0246-92-5505
 URL <http://www.amenityiwaki.co.jp>
 e-mail info@amenityiwaki.co.jp

(11)事業規模

資本金 1,000万円
 従業員数 64人(役員5名、事務職8名、技術職49名、パート2名)
 敷地面積 4,231.17㎡
 建築面積 1,542.57㎡
 売上高 561,142千円(2018年1月期・単体)
 733,973千円(2018年3月期・連結売上高)

(12)組織図

株式会社アムニティいわき エコアクション21実施体制及び業務体系



2018年5月1日現在

3. 環境方針

株式会社アムニティいわき 環境方針

【環境理念】

当社が、事業活動を行う「いわき」は、広大な市域面積を有し、東に太平洋、白砂青松の海岸線、西に阿武隈高地、そこに源を発するいくつもの河川など、豊かで多様な自然資源に恵まれています。この環境を保全し次世代への継承と循環型社会を構築するために、社員一人ひとりが誠実に地域と連携して、資源の有効活用や廃棄物の再資源化に努め、安全・安心な環境サービスを行っていきます。

【行動指針】

1. 環境関連法規等の順守

事業活動に関わる環境関連法規・条例・協定など、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。

2. 資源、エネルギー等の効率的な活用

水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷・資源枯渇等を認識し、省資源・省エネルギーの推進を図ります。特に浄化槽の清掃事業においては、当社開発の汚泥濃縮車を活用し、車両燃料の削減と浄化槽の処理水のリサイクルに努めます。

3. 廃棄物発生抑制と再資源化の推進

自社内はもとよりお客様の廃棄物においても発生抑制や分別の徹底により再資源化を推進し、廃棄物の最小化と適正処理を進めます。

4. 汚染の予防及び継続的改善

環境の汚染に対し、様々な緊急事態を想定し訓練することで予防・緩和措置をとり、汚染の予防を実施します。また、環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組みます。

5. 全員参加による地球環境保護の実践

全社員が地球温暖化の現状や環境経営の意義・組織の環境方針を理解し、環境目標を設定して自ら積極的に実践します。また地域になくてもならない事業所として、社会や地域貢献活動・環境保護に努めます。

6. グループ会社の対応

当社事務所に同居する有限会社カンセイ・有限会社第一環境管理センターも一体となって、上記に掲げる環境活動を推進します。

■この環境方針は全従業員及びサイト内で働く全ての人に周知すると共に社外に開示する。



2017年2月1日

株式会社アムニティいわき
代表取締役 根本 宏

4. 環境負荷の現状

【1】環境負荷の現状(2007年度～2016年度)

下の図は、エコアクションの認証へ向けて取り組み始めた2007年度を基準年(100%)とし、「二酸化炭素排出量」「総排水量」「廃棄物排出量」および当社の事業活動である「受託リサイクル量」の総量の実績である。なお電力消費による二酸化炭素排出量の係数は黄色の帯状の数値(東北電力発表)を採用している。

環境負荷項目	年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
	3社売上合計 (百万円)	596	622	578	571	637	709	699	775	666	722
二酸化炭素排出量	排出量(t/年)	392.8	381.4	390.5	405.6	458.0	461.1	490.8	466.7	425.7	448.8
	東北電力 排出係数	0.473	0.469	0.468	0.429	0.546	0.560	0.589	0.572	0.559	0.553
	2007比	100%	97%	99%	103%	117%	117%	125%	119%	108%	114%
総排水量	排水量(m ³ /年)	1,036	1,055	1,164	1,196	1,312	1,466	1,558	1,367	1,353	1,233
	2007比	102%	104%	115%	118%	130%	145%	154%	135%	134%	122%
廃棄物排出量	排出量(kg/年)	467.77	422.01	370.78	336.63	350.85	279.28	267.08	297.56	333.14	367.48
	2007比	100%	90%	79%	72%	75%	60%	57%	64%	71%	79%
受託資源物の リサイクル量	受託量(t/年)	949.0	1,032.2	1,019.0	1,109.3	1,279.2	1,756.3	2,297.2	2,281.4	2,360.9	2,331.0
	2007比	100%	109%	107%	117%	135%	185%	242%	240%	249%	246%

5. 環境目標(3ヶ年)

環境負荷は事業活動の拡大、すなわち売上や保有する車両台数、また従業員数によって大きく影響される。アメニティいわきグループでは、エコアクション21を「環境経営システム」ととらえ、環境負荷を各年度の総売上高(百万円)で除して、数値化している。それによって、100万円を売り上げる際にどのくらい環境負荷をかけているか、言い換えれば、自分たちが効率のいい業務ができているかを評価することができる。2015年4月に環境省が策定した「エコアクション21 CO2削減プログラム」の手引きにも「必要に応じて総量だけでなく、売上高や生産高などを用いて原単位を分析するとより有効です。」と記載されている。

下記の表は、2015年度を基準年(環境負荷数値／総売上高)とした、2018年度までの各年度の環境負荷指数(%)の目標一覧(環境目標)である。

環境目標一覧表(2016～2018年度)

環境負荷項目	年度	2015 (基準)	2016 (目標)	2017 (目標)	2018 (目標)
二酸化炭素 排出量	排出量(t/年)	425.75	404.46	383.17	361.88
	売上原単位(t/ 百万円)	0.640	0.608	0.576	0.544
	2015比(%)		-5%	-10%	-15%
総排水量	排水量(m ³ /年)	1,353	1,285	1,218	1,150
	原単位(m ³ /車 両台数)	24.16	22.95	21.74	20.54
	2015比(%)		-5.0%	-10.0%	-15.0%
廃棄物 排出量	排出量(kg/年)	333.14	329.81	326.48	323.15
	原単位 (kg/社員数)	5.95	5.89	5.83	5.77
	2015比(%)		-1%	-2%	-3%
化学物質 使用量	使用量(kg/年)	把握 適正管理	把握 適正管理	把握 適正管理	把握 適正管理
	2015比(%)				
グリーン購入	対象商品率	80%	83%	86%	90%
	2015比(%)		3%	6%	10%
自らが生産・販売・提 供する製品及びサー ビスについての環境 配慮	エコドライブによる 燃料削減	実施	実施	実施	実施
	環境関連ク レーム発生数	0件	0件	0件	0件
受託 リサイクル量	受託量(t/年)	2,360.9	2,384.5	2,408.1	2,431.7
	売上原単位(t/ 百万円)	3.55	3.58	3.62	3.65
	2015比(%)		1%	2%	3%
地域貢献活動の 実施	回数(回/年)	2回	2回	2回	2回
	2015比(%)		100%	100%	100%

6. 環境活動の主な取り組み

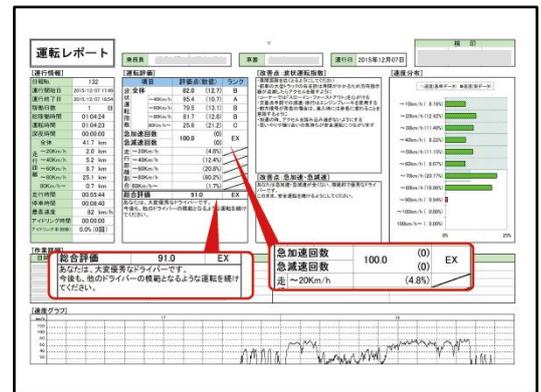
1. 二酸化炭素の排出抑制

エコサムを導入し、波状運転の低減を推進

2007年より40台にデジタコ(デジタルタコグラフ)を装着し、エコドライブに取り組んできた。しかし2017年11月これを廃止して、新たに「エコサム」を導入した。

この機器は GPS により車両の運行状況を把握し、波状運転・急発進・急ブレーキの指数を数値化。帰社後に専用 PC に接続すると、ドライバーごとに運転レポートが作成される。ドライバーの運転のクセや指摘事項が発生した場所が表示される。

デジタコ活用と同様に、毎月表彰を行っている。



エアコン温度の設定と節電の徹底

社内のエアコンスイッチのある箇所に冷暖房の設定温度(冷房 26℃ 暖房 23℃)を掲示(写真右)し、また照明スイッチのある箇所へ「節電」を呼びかける掲示を行い(写真左)使用電力量の削減に取り組んだ。



節電(左)と設定温度(右)の掲示

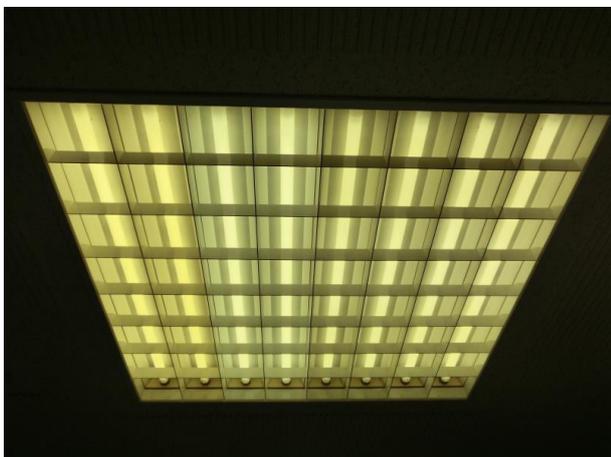
ペレットストーブを導入・活用

弊社社屋の1F玄関にペレットストーブを設置し活用している。燃料である木質ペレットは、カーボンニュートラル(燃やしても大気中の二酸化炭素の量を増減させないこと)の概念により、燃やしたときに排出する二酸化炭素は、成長過程で吸収したものであるため、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えない、とされている。

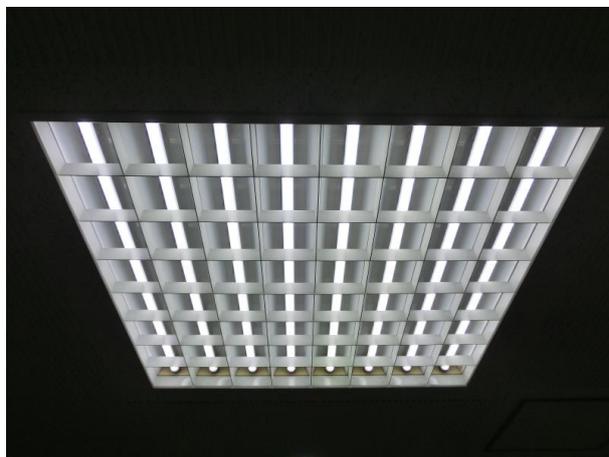


社内の蛍光灯をLEDに変更

東日本大震災後、エネルギー消費に対する意識が高まるなか、2012年春には社内の蛍光灯をすべてLEDへ変更した。2010年度(交換前)と2014年度(交換後)の電気使用量を比較すると、10,946kWh(23%)を削減している。



交換前



交換後

2. 総排水量の削減

雨水タンクの使用

作業車両の洗車に使用する水使用量を抑制するため、雨水タンクの使用を心がけた。雨水タンクは2010年5月に2基から4基へ増設した。

洗濯機の交換

水を出しっぱなしにしてしまう可能性がある2層式の洗濯機を廃棄し、新たに全自動洗濯機に交換。



雨水タンク

業務車両洗車の効率化

20年以上にわたり使用してきた洗車機を廃棄し、2013年秋には、据え付け式と移動式の洗車機をそれぞれ導入。効率的な使用方法を環境管理責任者の担当で研修した。特に毎日の業務終了後に必ず洗車を行うゴミ収集の部門については、一台あたりの洗車時間を決めて効率化に取り組んでいる。



3. 廃棄物排出量の削減

定められた分別マニュアルを順守し分別容器を使用するなど、従来取り組んでいたもので、その徹底を継続した。また、なるべく社内にごみを発生させないようにし、社内から排出される可燃物重量を廃棄物全排出量の30%以内にするように取り組んでいる。

4. 化学物質使用量の削減

当社では化学物質を製造していないが、ゴミ収集車などの作業車両を洗車した後は、汚水枡内の水素イオン濃度(pH)を適正值に保つため、次亜塩素酸ナトリウム(ジアソー)を使用して希釈し下水道へ放流している。グループ会社である有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤及びソーダ灰については、いずれもPRTR制度の対象となる化学物質ではない。

一方、廃棄物収集部門である環境課が家電販売店等に販売している「ハイメルツ溶剤」はその商品中にPRTR法の該当物質である、「1,3,5-トリメチルベンゼン」「キシレン」「エチルベンゼン」を含有しているが、ハイメルツ溶剤の貯蔵・販売数量は少なく、適切に保管している。

5. グリーン購入

当社で購入する事務用品はグリーン商品を選んでいる。社員の作業着もエコマークがついている商品を購入し、毎年衣替えの6月と10月に配布している。その際、汚れやスリ切れなどがある作業着については、企業イメージアップも考慮して、社員から提出してもらい、古着を回収するNPO法人へ提供している。それらの古着は自動車の内装資材へリサイクルされている。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

前述したデジタコを導入し全員でエコドライブの取組、燃料の削減に取り組んでいる。同時に安全運転も心がけるので、運転技術やマナーが向上している。それは廃棄物収集作業を行うことにも好影響をもたらし、作業に関する苦情やクレームもほとんど発生していない。

7. 受託資源物のリサイクル

事業系一般廃棄物のうち、缶、ペットボトル、段ボール・古紙などの資源物は専用車両で収集し、リサイクルの推進に努めている。また個人情報保護について近年さらにその徹底は求められており、目の前で機密文書を細断する出張細断車「エコポリスバン」は毎日のように稼働している。



出張細断車「エコポリスバン」

8. 地域貢献活動

いわき市で主催している「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に6月と10月の年2回、全社員で参加している。そのほか、いわき市が主催するイベントである「リサイクルフェア」には2008～09、2012～17年とほぼ毎年出展依頼を受け参加している。



総ぐるみ運動への参加の様子(10月)



雨天でも盛況なりサイクルフェア(2017年10月)



新企画「ダンボールを使ったパズル」が大人気

9. エコ検定への挑戦

社員の環境教育また環境への意識啓蒙のとして、東京商工会議所が主催するエコ検定(環境社会検定試験)に2009年から毎回数名ずつが受験している。

勉強会では公式テキストや問題集を広げたり、自宅での勉強に取り組み、現在在職の社員の40%にあたる24名が合格している。



7. 2017年度環境活動計画(単年度)の目標と実績

環境負荷項目	目標 実績	年度	2015	2017
二酸化炭素排出量	目標	排出量(t/年)	425.75	383.17
		売上原単位(t/百万円)	0.640	0.576
		2015比(%)		-10%
	実績	排出量(t/年)	425.75	449.49
		売上原単位(t/百万円)	0.640	0.612
		2015比(%)		-4.3%
総排水量	目標	排水量(m ³ /年)	1,353	1,218
		原単位(m ³ /車両台数)	24.16	21.74
		2015比(%)		-10.0%
	実績	排水量(m ³ /年)	1,353	1,311
		原単位(m ³ /車両台数)	24.16	21.85
		2015比(%)		-9.6%
廃棄物排出量	目標	排出量(kg/年)	333.14	326.48
		原単位(kg/社員数)	5.95	5.83
		2015比(%)		-2%
	実績	排出量(kg/年)	333.14	354.54
		原単位(kg/社員数)	5.95	6.11
		2015比(%)		2.8%
化学物質使用量	目標	使用量(kg/年)	把握 適正管理	把握 適正管理
		2015比(%)		
	実績	使用量(kg/年)	把握 適正管理	把握 適正管理
		2015比(%)		
グリーン購入	目標	対象商品率	80%	86%
		2015比(%)		6%
	実績	対象商品率	80%	86%
		2015比(%)		6%
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスについての環境配慮	目標	エコドライブによる燃料削減	実施	実施
		環境関連クレーム発生数	0件	0件
	実績	エコドライブによる燃料削減	実施	実施
		環境関連クレーム発生数	0件	0件
受託リサイクル量	目標	受託量(t/年)	2,360.9	2,408.1
		売上原単位(t/百万円)	3.55	3.62
		2015比(%)		2%
	実績	受託量(t/年)	2,360.9	2,270.6
		売上原単位(t/百万円)	3.55	3.09
		2015比(%)		-12.8%
地域貢献活動の実施	目標	回数(回/年)	2回	2回
		2015比(%)		100%
	実績	回数(回/年)	3回	3回
		2015比(%)		150%

目標未達



目標ほぼ達成!

目標未達



目標達成!



目標達成!



目標達成!

目標未達



目標達成!

8. 環境活動計画の取組結果と評価及び今後の取組計画

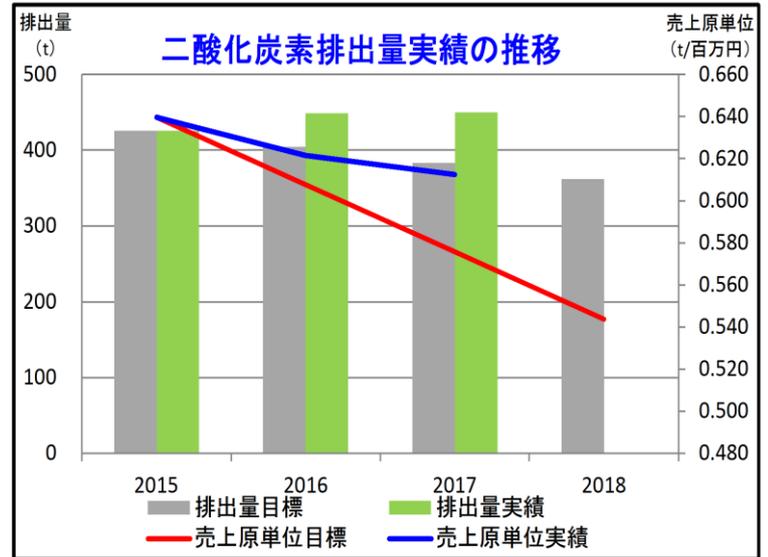
2015年度を基準年(環境負荷数値/総売上高)とし、2018年度まで中期目標(3ヶ年)を掲げ取り組んできた。今項では、3ヶ年間の結果・評価・特記事項、また今後の取り組み計画について示す。

1. 二酸化炭素排出量削減

2017年度の目標は、売上高原単位で2015年度比10.0%(0.064t-CO₂/百万円)の削減を計画したが、結果として目標を下回る4.3%(0.059t-CO₂/百万円)削減にとどまった。

(実績を表す青色の折れ線グラフが目標を表す赤色の折れ線グラフを上回っている)

地球温暖化の影響からか社内での電力使用量が増加している。また廃棄物部門の顧客数の増加やリサイクル推進への需要から車両台数も増やしたことが原因だと考えられる。



今後の取組計画

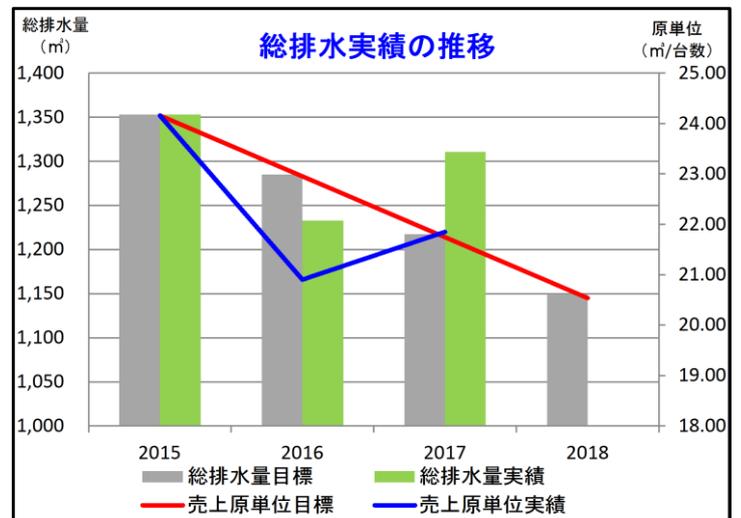
社内での電気の使用については、作業効率に影響を与えない温度設定と適切な使用法を検討する。またデジタコからエコサムへ機器を変更したが、波状運転の抑制・ふんわり運転の推進をはかり、エコドライブに関する意識を再び啓蒙していく。

2. 総排水量削減

2017年度の目標は、売上高原単位で2015年度比10.0%(2.42m³/台)の削減を計画したが、車両の増加もあり目標にはわずかに届かなかった。

今後の取組計画

効率的な洗車方法について学びなおすことと、他に節水できることはないか検討する必要がある。

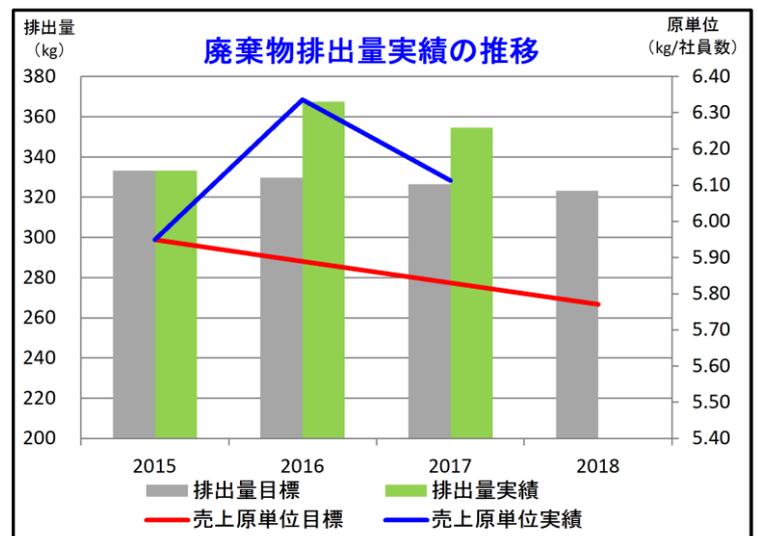


3. 廃棄物排出量削減

2017年度の目標は、社員数原単位で2015年度比 2.0% (0.12kg/人) 削減することだったが、逆に2.8% (0.16kg/人) 増加してしまった。廃プラスチックのリサイクル等が徹底されていないことなどが原因としてあげられる。

今後の取組計画

分別のルールを常に最新のものにし、再度社内にはリサイクルを徹底し、社内ゼロエミッションへの検討を行う。



4. 化学物質使用量の削減

2017年度も当社では化学物質を製造していない。しかし、廃棄物の収集部門(環境課)で家電販売店等に販売しているハイメルト溶剤にPRTR法に該当する物質が含まれていることが分かった。過去3年間の販売実績・貯蔵量を調査してみたが、ともに量は少ないことがわかった。

今後の取組計画

ゴミ収集車などの作業車両を洗車する際に使用する次亜塩素酸ナトリウム(ジアソー)や、有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤・ソーダ灰について、次年度はその数量を把握し出来る取り組みについて検討する。

5. グリーン購入

事務部門で購入する事務用品はすべてグリーン製品だった。しかし購入する業務車両用のタイヤのうちリサイクル品ではなく新品のものがある。

今後の取組計画

来年度はもう一度事務用品及びタイヤその他業務で使用する商品を検討し、リサイクルされたものでも、環境に配慮し製造された商品を積極的に使用していくことにしたい。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

当社が提供する環境サービスには、お客さまや地域住民の皆様、行政関係者などから高い評価を頂いている。また環境に関する苦情やクレームも受けていない。またドライブレコーダーを全車両に搭載し、そのほかエコサムやアルコールチェッカーの導入など、社員の安全を守る具体的な方策を取っている。

今後の取組計画

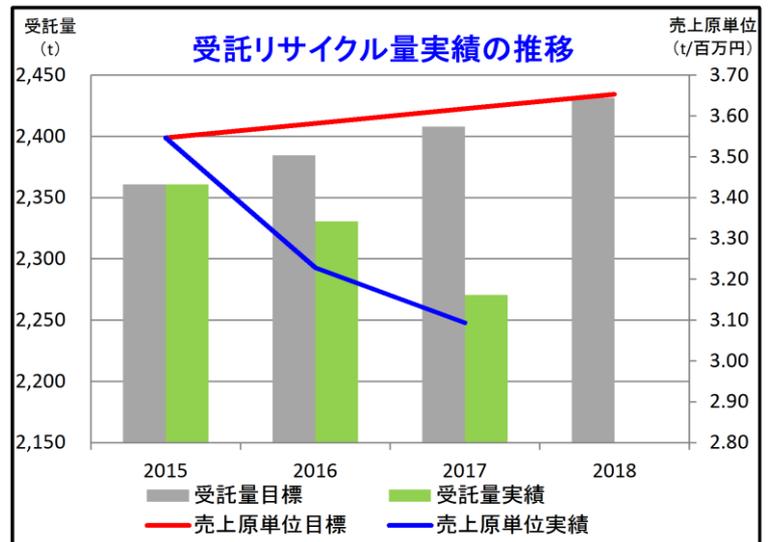
デジタコに代わって新たに導入したエコサムを使用して波状運転の抑制とふんわり運転の推進を社員全員で取り組んでいく。またドライブレコーダーについては、無作為に作業車両から取り外し、社員の運転状況について確認し、市民の皆様から信頼をより得られるような心構えや運転技術を指導していく。

7. 受託リサイクルの推進

当社では、事業系一般廃棄物の収集運搬に従事しているが、数年前から段ボール・古紙類、缶専用の車両を走行させ、特に段ボール・古紙類については、顧客に分別の啓蒙を粘り強く推進してきた。そこで当社オリジナルの取り組みとして、受託資源物のリサイクルに取り組んだ結果、売上高原単位で2015年度比2.0% (0.07t/百万) 増加させるとの計画目標に対して、13.0% (0.46t/百万) の減少となり目標には未達だった。

今後の取組計画

引き続き当社の顧客にさらなる分別とリサイクルを啓蒙し、循環型社会構築の活動を大きく推進していきたい。



6. 地域貢献活動

地域貢献活動を一年間に2回以上実施する目標に対して、6月と10月に「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に参加。10月には、いわき市から「リサイクルフェア」への出展の依頼を受け3年連続で出展。地域貢献活動は年間3回と達成できた。

今後の取組計画

今後はさらに当社独自の活動も検討し、地域に貢献する環境活動を行っていきたい。



暮らしを、まちを、もっとキレイに。



9.表彰等

「福島議定書」事業で最優秀賞(県知事賞)を受賞

平成22年には「福島議定書」事業の事業所版「運輸・設備業」部門で「最優秀賞」(福島県知事賞)を受賞した。



「ごみ減量化コンクール」優秀賞を受賞

平成23年には福島県「ごみ減量化コンクール」取組部門で「優秀賞」を受賞した。



10. 代表者の全体評価と見直しの結果

エコアクション21の認証を得てから10年になるが、若干のマンネリ感を感じる。削減のみの目標だけではなく、社員ひとりひとりが活動を実感でき、会社がさらに活性化されるようなプログラムを検討してもらいたい。再度原点に立ち返り、さらなる環境パフォーマンスの向上を目指し、全社一丸で継続的改善に取り組んでもらいたい。

11. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

グループ会社も含め、環境関連法規への違反はなかった。さらにグループ会社の遵守状況もチェックした結果、問題はなかった。関係当局より違反の指摘も過去3年間ない。お客様及び地域近隣住人からの訴訟・苦情等もなかった。

12. 許可の内容

【福島県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業(積替え及び保管行為を含まない。)
許可番号	第00709004940号
許可年月日	平成25年7月23日
許可有効期限	平成30年7月14日
産業廃棄物の種類	①燃え殻、②汚泥、③廃油、④廃酸、⑤廃アルカリ、⑥廃プラスチック類、⑦木くず、⑧繊維くず、⑨動植物性残さ、⑩ゴムくず、⑪金属くず、⑫ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず、⑬がれき類(これらのうち、石綿含有産業廃棄物を含み、特別管理産業廃棄物であるもの及び自動車等破砕物を除く。)以上13種類
事業の範囲	福島県

【茨城県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業(積替え及び保管行為を含まない。)
許可番号	第00801004940号
許可年月日	平成27年3月26日
許可有効期限	平成32年2月14日
産業廃棄物の種類	①汚泥、②廃油、③廃プラスチック類(自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。)④木くず、⑤ゴムくず、⑥金属くず(自動車等破砕物を除く。)、⑦ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。)、⑧がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)以上8種類
事業の範囲	茨城県

【いわき市】

事業の区分	一般廃棄物収集運搬業(積替え及び保管を除く。)
許可番号	いわき市指令第6053号
許可年月日	平成29年8月30日
許可有効期限	平成31年8月31日
一般廃棄物の種類	粗大ごみを含むごみ、し尿、浄化槽に係る汚泥
事業の範囲	いわき市

13. 施設等の状況(収集運搬)

○運搬車両の種類と台数

パッカー車16台 ダンプ1台 脱着装置付コンテナ専用車4台 冷蔵冷凍車1台
 缶プレス車1台 出張細断車1台 廃食用油回収車1台 キャブオーバ2台
 強力吸引車1台 糞尿車7台 汚泥濃縮車1台 計38台



塵芥車(パッカー車)



ダンプ



脱着装置付コンテナ専用車



冷蔵冷凍車



缶プレス車



出張細断車(エコポリスパン)



強力吸引車



糞尿車



浄化槽汚泥濃縮車

14. 廃棄物処理料金

処理料金＝収集運搬料金＋処分料金 となる。なお見積りは無料にて行っている。

①収集運搬料金について

NO	車種	いわき市内	いわき市外(福島県内 郡山市を除く)
1	2t車	15,000円	20,000円～
2	2t脱着車	15,000円	20,000円～
3	4tクレーン付脱着車	25,000円	30,000円～
4	3tパッカー車	25,000円	30,000円～
5	4tパッカー車	30,000円	35,000円～

※地域によって別途の料金設定になることがある。

※高速道路使用時には料金が追加となる。

※消費税が別途加算される。

②処分料金について

NO	受入品目	単位	処分単価
1	混合廃棄物	m ³	6,500円～
2	汚泥	kg	25円～
3	廃油	kg	20円～
4	廃プラスチック類	m ³	6,000円～
5	木くず	m ³	4,000円～
6	動植物性残さ		現状確認後、ご相談の上
7	ゴムくず	m ³	6,000円～
8	金属くず	m ³	0円～家電リサイクル法の対象製品は別途
9	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	m ³	6,000円～
10	がれき類	t	2,000円～

※荷の状態等により、別途の料金設定になることがある。

※袋等に分けてある場合、料金について考慮される。※消費税が別途加算

③グリストラップ清掃料金について

NO	作業種類	単位	処理単価	条件
1	定期作業	m ³	25,000円～57,000円	0.3m ³ ～1.0m ³ まで
2	スポット作業	m ³	32,000円～65,000円	0.3m ³ ～1.0m ³ まで

15. 受託した廃棄物の処理量

2017年度(2017年4月～2018年3月)

産業廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
燃え殻		0.00
汚泥		166.75
廃油		2.69
廃酸		0.00
廃アルカリ		0.00
廃プラスチック		379.81
木くず		120.20
動植物性残さ		0.33
ゴムくず		0.00
金属くず		305.65
ガラス・コンクリート・陶磁器くず		308.90
がれき類		150.92
廃石綿等		0.00
合計		1,435.25

一般廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
可燃物	市の清掃センターにて焼却	4,740.1
缶	リサイクル	335.2
ビン		243.8
ペットボトル		127.5
ダンボール		1544.3
新聞紙		84.5
古紙		72.4
シュレッダー紙		59.4
廃食用油		47.4
合計		7,254.5

暮らしを、まちを、もっとキレイに。



株式会社アメニティいわき

発行日 2018年6月22日

住所 〒971-8168

福島県いわき市小名浜君ヶ塚町5の9

TEL 0246(54)2838

FAX 0246(92)5505

E-mail info@amenityiwaki.co.jp

発行責任者 三神輝雄

(総務部長・EA21推進室事務局長)

暮らしを、まちを、もっとキレイに。

amenity
iwaki
Group



株式会社アメニティいわき